



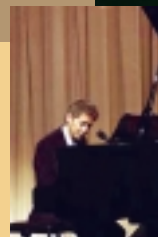
# UNIC Tokyo Dateline UN

October 2002 Vol.35

国際連合広報センター

## 国連デー記念 シンポジウム

～ご参加ありがとうございました～



- 1) 国連薬物統制・犯罪防止事務所 (UN-ODCCP) 親善大使を務める小室哲哉氏は、国連デーを祝い自作の曲を披露した
- 2) ハーフムーンの演奏
- 3) シンポジウム会場となったウ・タント国際会議場
- 4) 600名近い参加者でにぎわいをみせるUNハウス

## ミレニアム開発目標の実現に向けて ～国連システムと日本の役割～

東京・渋谷の UN ハウス (国連大学ビル) では10月24日、「国連デー記念シンポジウム」が開催されました。この日は国連が創設された日で、1945年の創設以来、毎年「国連デー」として全世界で記念行事が行われており、国連としては最も重要な日です。これまで日本では各国連機関が独自にその行事を行っていましたが、今年は初の試みとして UN ハウスにおいて日本全国にある国連関連の事務所のうち19団体が一堂に会し、「国連デー」イベントを実施しました。

「ミレニアム開発目標の実現に向けて～国連システムと日本の役割～」をテーマにしたシンポジウムでは、基調講演とパネル・ディスカッションに引き続き、アーティストによるトークと音楽が披露され、国連デーを祝う大勢の参加者で UN ハウスは大盛況の一日となりました。

### INSIDE

- 国連デーに寄せる  
アナン国連事務総長メッセージ 2
- 国連デー記念シンポジウム・報告 3
- 東ティモールが国連加盟国に 4
- UNIC イスラマバードを訪れて 5
- 高島肇久前国連広報センター所長より  
離任のごあいさつ 6-7

<http://www.unic.or.jp/>

# United Nations Day

国連デー

10.24

----- 親愛なる世界の友人たちへ -----

## コフィー・アナン国連事務総長メッセージ



国連デーを祝うに際し、特に今年は、一番新しい国連加盟国 — スイスと東ティモールの皆様に歓迎の意を表したいと思えます。

今や国連は、かつてないほど明確に全人類を代表するようになりました。

また、今日ほど人類が国連を必要としている時ありません。

今日、いかなる国といえども、自国の力だけでその国が直面する課題に対処することはほとんどありません。

しかし、世界の人々が皆、力を合わせるならば、達成できる事柄はたくさんあります。ですから、私たちの組織である国連を育てていきましょう。そして、すべての人がその成功から恩恵を受けることができる

*“ There are so few things that any nation can control, relying purely its own resources. And there are so many things that the world’s peoples can achieve, if we all work together.”*

ようにしましょう。

それにはどうすればいいのでしょうか。私たちがなすべきことは、2年前、ミレニアム・サミットの場合すべての国連加盟国の指導者たちが約束したことを実現するよう、努力を重ねていくことです。

これらの約束は、貧困の削減から、エイズの蔓延の阻止、安全な飲み水へのアクセスの確保まで、人間の基本的なニーズに基づいています。そして、それらには2015年という達成期限が定められています。私たちはこれらの目標を「ミレニアム開発目標」と呼んでいます。

残念ながら、今のところまだ、この目標に向けて順調に進んでいるとは言いがたい状況です。これまでの10年間より今後12年間に着実な成果をあげなければ、この目標のほとんどは失敗に終わることになります。

すべての国がいっそうの努力をすることが必要です。そのためには、それぞれの国の国民である皆さんが、約束されたことが実施されるよう粘り強く求めていくほかはありません。

国連は皆さんの組織です。国連をもっと活用していきましょう。



- 1 メアリー・D・オディンガ 駐日ケニア大使
- 2 吉川元偉 外務省経済協力局審議官
- 3 マリ・クリスティーン 国連ハビタット親善大使
- 4 山本理夏 特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン東京事務局海外事業部チーフ



- 5 石塚雅彦 (財)フォーリン・プレスセンター専務理事
- 6 弓削昭子 UNDP 駐日代表
- 7 アド・デ・ラード UNV 事務局次長
- 8 横田洋三 国連大学学長特別顧問
- 9 マッツ・カールソン 世界銀行対外関係・国連担当副総裁

## 2002年国連デー記念シンポジウムから

今シンポジウムのテーマは「ミレニアム開発目標に向けて～国連システムと日本の役割～」です。ミレニアム開発目標 (MDG: Millennium Development Goals) とは、2000年9月にニューヨークで開催された147カ国の国家元首を含む189の加盟国が参加した国連ミレニアム・サミットにおいて採択された国連ミレニアム宣言と、1990年代に開催された主要な国際会議やサミットで採択された国際開発目標を統合し、開発のための1つの共通の枠組みとしてまとめられたものです。今、世界はその約束の達成を目指しています。ミレニアム開発目標は2015年までに達成すべき目標として次の8つを掲げています。

- 1) 貧困と飢餓の撲滅
- 2) 普遍的初等教育の達成
- 3) 女性の地位向上
- 4) 乳児死亡率の削減
- 5) 妊産婦の健康の改善
- 6) HIV/AIDSを中心とした感染症疾病の蔓延防止
- 7) 持続可能な環境の確保

### 8) 開発のためのグローバル・パートナーシップの推進

当日のUNハウスは600名近い参加者で大変にぎわい、3階の国際会議場に入りきれない人々は別室に設けられたモニターから会議の様相を知ることができました。今シンポジウムの目標は、このミレニアム開発目標をいま一度再確認し、広く日本の皆様にその意義を知ってもらうことでした。

まず、国連大学学長特別顧問の横田洋三氏が主催者側を代表して開会あいさつを行いました。続いてコフィー・アナン国連事務総長のビデオ・メッセージが上映された後、土屋品子外務大臣政務官があいさつに立ち、途上国のための国際的パートナーシップの重要性を述べました。また、国連ボランティア計画 (UNV) 事務局次長アド・デ・ラード氏と世界銀行対外関係・国連担当副総裁マッツ・カールソン氏がMDGに関する基調講演を行いました。パネル・ディスカッションは国連開発計画 (UNDP)

駐日代表弓削昭子氏の司会で進められ、メアリー・ドンデ・オディンガ駐日ケニア大使、吉川元偉外務省経済協力局審議官、マリ・クリスティーン国連ハビタット親善大使、山本理夏特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン東京事務局海外事業部チーフ、石塚雅彦(財)フォーリン・プレスセンター専務理事が参加して、各人のこれまでの経験に基づきながら国際協力のあり方やMDGを推進するにあたって一市民としてどのように関わり合うべきか、について活発な意見交換が行われました。

記念すべき日の最後を飾るものとして、国連薬物統制・犯罪防止事務所 (UN-ODCCP) の親善大使を務める小室哲哉氏がゲストとして登場し、国連デーのために自ら作曲した曲を会場で披露し、観客は熱い拍手を送りました。

日本に事務所を構える国連関連機関は、今後とも国連デーには何らかの催しを行うことによって、一般の方々との交流をより深めていきたいと考えています。

## 東ティモールの勇気と決意を称賛

コフィー・アナン 国連事務総長

国連は9月27日、第57回国連総会で、東ティモールによる国連加盟申請を全会一致で承認しました。これにより、東ティモールは191番目の加盟国となりました。以下は同日、ニューヨーク国連本部での東ティモール国旗掲揚式で、コフィー・アナン国連事務総長が述べたあいさつです。

きょうは歴史的な日です。

4カ月ほど前、私は東ティモール民主共和国独立の式典に出席させていただきました。きょう、東ティモールを国連の191番目の加盟国として迎えることは、私にとって大きな喜びです。

この画期的な出来事は、独立国家の共同体に加わろうとする東ティモール国民の希望



ニューヨーク国連本部ビル前で行われた東ティモール国旗掲揚式。グスマン東ティモール大統領(左)とアナン国連事務総長

が実現したことを意味します。国連は長年にわたり、多国籍軍INTERFET、国連東ティモール支援団(UNAMET)、国連東ティモール暫定行政機構(UNTAET)および国連東ティモール支援ミッション(UNMISSET)などの活動を通じて、東ティモールを支援してきました。

私は今、東ティモールが国連の活動に積極

的に参加してくれることを期待しています。それは、同国国民の闘争を特徴づけ、国連憲章にも体现された民主的原則による参加です。

東ティモールの長きにわたる民族自決闘争を見てきた私達は誰も、この瞬間に感動を禁じえないでしょう。私達はすべて、東ティモールの人々が払った犠牲も、その指導者の勇気も、忘れることができません。これまでも、東ティモールは、偉大な国家とはその規模や資源の問題ではなく、グローバルな市民性と国連憲章のもっとも崇高な原則の遵守によって決定されるのだということを示してきました。

東ティモールの人々の勇気と決意、そして、正義、和解および民主主義の精神における自国建設へのコミットメントは、今日までの成果が将来の世代にも受け継がれるという最大の保証であると、私は確信しています。

東ティモールの国連加盟にあたり、シャナナ・グスマン大統領は、国連と国際社会による貢献に感謝の意を表明した上で、同国が無事、独立を達成できた原動力は、その国民であると発言。ティモールの人々は、暴力を拒絶し、民主的かつ市民的にその権利を行使し、将来を見据えて自由を確立することにより、自らが賛辞に値する存在であることを証明したと述べました。グスマン大統領は、今後20年間の発展に向けたビジョンを定め、貧困と非識字を根絶し、万人の生活水準を向上させる必要性に取り組んでいる人々を代表していると言えましょう。

グスマン氏によれば、東ティモー



国連総会で演説するグスマン東ティモール大統領

ルの人々は、数十年間にわたる独立闘争と苦悩を経て、平和と安定を望んでいます。しかし、平和と安定の雰囲気醸成できるのは、寛容で公正な社会しかありません。同国は、正義を称え、あらゆる憎悪と復讐の感情を根絶する目的をもって、国民的和解への道を歩みだしました。平和に暮らすことは、東ティモールの

運命です。そのためには、調和、寛容および連帯に基づく社会の創設が必要なのです。

また、ヤン・カバン総会議長(チェコ共和国)は、国連の新加盟国として東ティモールを歓迎し、今日の成功をもたらす闘争を繰り広げた東ティモール人の勇気と決意を称えました。東ティモールは、21世紀最初の独立国となりました。その独立に到る過程で、国連は不可欠な役割を果たしました。しかし、独立によって国連の東ティモールへの関与が終わるわけではありません。それはむしろ、これまでの成果の足固めと進展を図るべき、新たな段階の始まりを意味するのです。



# UNIC イスラマバードを訪ねて

国連広報センター（東京）インターン 帖佐聡一郎

2002年10月、NGOの選挙監視員としてパキスタンを訪れていた私は、帰国前の自由時間を利用して首都イスラマバードにある国連広報センター（United Nations Information Centre = UNIC）を訪問し、同センターの所長代行を務める日本人職員の大野徹雄氏【写真・右】にお会いしてきました。大野氏は1992年10月から約2年半にわたり、東京の国連広報センターの広報官を務めました。

休日であったにもかかわらず、大野氏は快く私たちを迎えてくださり、30分以上にわたって質問に答えてくださいました。



## イスラマバードを選んだ理由

インタビューを始めるにあたり、まず、大野氏がパキスタン（イスラマバード）に赴任することになった経緯をお聞きしました。

大野氏は当時、パリのユネスコに4年間勤務されていました。2001年9月に、次の任地としてニューヨークとイスラマバードが選択肢として挙げられた際、イスラマバードを選んでUNICに赴任し、現在に至っています。

イスラマバードを選んだ理由として、大野氏はパキスタンにおける国連の活動のスコープが広いことを挙げています。パキスタンの国土が広いという意味はもちろんのこと、各国連機関が相互に密接に協力し合うことで、より幅広い領域で活動を行うことができる点がその理由です。実際に、イスラマバードでは週に一度のペースで各国連機関の代表が集まり、会合を開いているそうです。大野氏によれば、このような協力関係は他の地域ではあまり見られないことで、非常にやりがいを感じているそうです。

## 広報活動のあり方

次にUNICイスラマバードの日常業務についてうかがいました。他の地域のUNIC同様、国内での国連の広報活動を行うことがその主な業務であるものの、先に述べたように、他の国連機関と密接に協力して広報活動を行うところがUNICイスラマバードの持つ大きな特徴であるそうです。最近の活動としては10月24日の国連デーに向けた準備で、記者会見も頻繁に行っているそうです。

では具体的にどのような方法で広報活動を行なっているのでしょうか。大野氏によると、現在は主に新聞の紙面を使って広報活動を行っており、将来的にはラジオを活用する構想もあるようですが、今のところ実現のめどは立っていないとのこと。また、今後の活動の課題は地方での広報活動であり、より力を入れていきたいとのことでしたが、その際の大きな問題として言葉の問題を指摘していました。現在、ホームページなど一部の情報に関してはパキスタンで広く使われている現地語

のウルドゥー語で翻訳されているものの、依然としてほとんどの情報は英語で提供されており、英語の使用人口が少ない地方での活動を進めるためにはウルドゥー語による情報提供を積極的に行っていかなければならないとのこと。

## インタビューを終えて

UNICイスラマバードの業務については、UNIC東京と大きな違いはないという印象を受け、国連の公用語以外で広報活動をするものの不自由さは日本と共通であると感じました。しかし、テレビ・ラジオやインターネットといったコミュニケーション手段の普及が著しく遅れているパキスタンでの広報活動がいかに困難であるかは、大野氏は特に強調することはありませんでしたが、我々の想像を超えるものであると考えられます。

日本のような非常に恵まれた環境のなかで仕事ができることを感謝しつつ、困難も厭わない大野氏の仕事に対する姿勢を目標に、今後もUNICでのインターンの仕事に取り組んで行こうと認識を新たにしました。

# これからもよろしく

## ～国連広報センター所長離任に寄せて～

外務報道官・高島肇久

東京・渋谷のUNギャラリーで「国連ポスター展」が始まった2002年8月1日が、私にとって国際連合広報センターでの最後の日になりました。その翌日から外務省に移って、外務報道官の仕事をしています。

2000年9月1日に日本人初の広報センター所長に就任して以来、約2年間、それまで30数年を過ごしたテレビジャーナリストの仕事とのあまりの違いに、戸惑ったり気負い立ったりしながら、慌ただしく月日を過ごしました。限られた予算。音に聞こえた国連本部の官僚主義。「指示を仰ぐべきニューヨークが昼なら東京は夜中」という大きな時差、などなど、様々な制約、難関の中で突然国連に放りこまれた新米所長は、東京の国連広報センターの素晴らしいスタッフの皆さん、インターンの若者たち、国連を力強く支援してくださる日本のNGO、外務省、各地の国連協会の皆様に支えられながら、何とか仕事に慣れ、任務を全うすることができました。心から御礼申し上げます。

皆様のご支援のおかげで、東京の国連広報センターはこの2年間に大きく飛躍しました。国連大学ビル8階でひっそりと仕事をしていた広報センターは、私が着任してまもなく、国連大学のヒンケル学長のご理解とご協力を得て、エントランスホールから2階にかけてのスペース

に国連加盟各国の国旗を華やかに掲示しました。ここが日本での国連活動の中心であることを外に向けてPRしようとする試みです。2001年1月になると、このビルは、折から来日中のアナン事務総長によって「UNハウス」と命名され、その後、国連各機関の活動などを紹介する「UNギャラリー」がオープンしました。

ご存知でしょうか。日本には、1958年から活動している国連広報センターや、今年秋にできたばかりの国連人口基金（UNFPA）東京事務所など国連関係の機関や出先が24もあります。それぞれの機関には広報担当者がいて、自分たちの仕事を日本の皆様に知っていただくための広報活動を行っています。しかし、その活動はバラバラで、なかなか広がりを持って、各機関が互いに協力し合う方法はないかという話は何回も持ち上がっていました。

その答えとして広報センターが開設したのが「UNギャラリー」です。本誌Dateline UNで何回もお伝えしていますので、すでにご存じの方も多いと思いますが、この展示場は、国連が世界の人々に知ってほしいと考えていること、国連の各機関がPRしたいと願っていることを写真、ビデオ、パネル、地図、実物展示など様々な方法で紹介できるようにしてあります。いわば日本初の「国連ビジター・センター」です。

展示内容は様々です。小型武器と対人地雷の実物を並べて、その怖さと問題の深刻さをわかりやすく説明したこともありますし、タリバンに破壊されたバーミヤンの石仏の巨大な写真を壁一面に掲示して、異なる文明同士の対話の必要性を訴えたこともあります。展示内容は回を追うごとに充実し、新聞、雑誌、テレビでも度々紹介されるようになりました。今のところ週末や祝日は閉館しているため、入場者数は期待していたほどには増えませんが、それでも修学旅行の生徒さん、通りすがりの方々、近くにお住まいですっかり常連になられたお年寄りなど、毎日たくさんの方がUNハウスの回転ドアを通してギャラリーに来て下さっています。

また、このUNギャラリーの活動がきっかけとなって、日本の国連諸機関が合同でシンポジウムやイベントを催すことが多くなりました。アフガニスタンの女性をテーマにした「国際女性の日」のシンポジウム。国連が世界の企業に参加を呼びかけている「グローバル・コンパクト」の説明会。今年10月の国連デーには、オール国連のシンポジウムが開かれました。会場のUNハウス3階の大ホールは満員で、一聴衆として参加した私はただただ感激致しました。

アナン事務総長はかねてから「国連諸機関はファミリーとして一緒に

力を合わせて活動してほしい。特に、国連が最大の活動目標としている『MDG (= ミレニアム・ディベロップメント・ゴール)』はすべての国連機関が総力を挙げて取り組むべき課題だ』と言っていますが、10月の「国連デー・シンポジウム」のテーマは、「MDGを達成するため

に国連機関と日本はどんな役割を果たしうるか」で、まさにアナン事務総長の言葉をそのまま形に表わしているように見えました。

それにしても、新しい世紀のはじまりと2001年9月11日の同時多発テロは、国連に新たな試練を与えているように思えてなりません。「地球上に住む60億の人々のうち、平和で豊かで幸せな暮らしをしている人はほんの一握りにしかすぎない。多くの人々が貧困、疫病、欠乏、恐怖、戦乱、汚染など様々な苦しみを強いられている。しかも、持てるものと持たざるものの格差はますます広がり、そのことが新たな戦火を引き起こし、テロを生む温床にもなりうる」と指摘されています。そのすべての問題に取り組むところこそ国際連合とその諸機関です。地球と人類の未来を託すべきところは当面、国連をおいて他にないのです。

国連総会の決議によって、2006年の末まで事務総長の座に留まることになったアナン事務総長は、国連ファミリーがその難しい仕事に立ち



国連広報センターの職員、インターンに囲まれた高島前所長（前列右から3人目）

向かうための総司令官です。事務総長自身、毎日のように行う演説の言葉の端はしに仕事への意欲を感じさせています。

私が国連広報センターで過ごした日々でもっとも印象深かったのは、2001年10月、ノーベル平和賞が国連とアナン事務総長に贈られることになったというニュースが流れた時のことでした。国連広報センターはもちろん、UNハウスのすべてのオフィスのスタッフが、その瞬間、国連に籍を置いていることを誇らしく思い、誰ともなくUNギャラリーにアナン事務総長とニューヨークの国連本部の写真掲げてこの喜びを多くの人々と分かち合おうという話が持ち上がりました。国連職員になってわずか1年程の私は、この素晴らしい時に国連職員であった幸運に酔いれました。

国連広報センターを離れて1カ月余りたった2002年9月15日。私は、川口順子外務大臣に同行してニューヨークの国連本部にアナン事務総長を訪ねました。大臣一行の中にいた

私をめざとく見つけたアナン事務総長は「マイ・フレンド。新しい仕事はどうかね」と声を掛けてくれました。「一度会った人は決して忘れない」というアナン伝説が思い出される一瞬でした。そのアナン事務総長は川口外務大臣との会談で、ミレニアム・ゴールの達成への取

組みを説明する一方、国連改革を積極的に進めることを力を込めて語り、日本の更なる支援と協力が必要であることを強調していました。

誕生から半世紀余りを経た国連は、アナン事務総長のリーダーシップで新しく生まれ変わろうとしています。国連にとって日本は「人、物、金、そして智慧」のすべてについて、極めて重要な供給者であり、日本の支援なくして国連とアナン事務総長の新たな取り組みが成功することは考えられません。そのことを日本の国民の皆さまにいかにも深く理解して頂くのが、国連広報センターと日本にある国連諸機関の当面の最大の課題です。

国連広報センターは間もなく決まるであろう新しい所長の下で、その課題に懸命に取り組んで行くはずで。また私も、外務省での新しい仕事の中で、日本と国連の結びつきを少しでも強めるよう努めて行くつもりです。

これからもどうかよろしくお願ひ申し上げます。



UNギャラリー1階に設置された  
UNメール・ボックス

国連では、国連本部がある米国やスイスおよびオーストリアの郵政当局と協定を結び、独自の国連切手を発行しています。その国連切手が、このたびUNギャラリーの1階で販売されることになりました。

国連切手は通常、ニューヨーク、ジュネーブおよびウィーンの国連事務局にある国連郵便局から投函する場合のみ使用することができましたが、東京のUNギャラリーの1階に設置されたUNメール・ボックスから国連切手（米国通貨のみ）を貼付した葉書を投函すると、ニューヨーク国連本部の消印が押されたのち配達されることとなります。

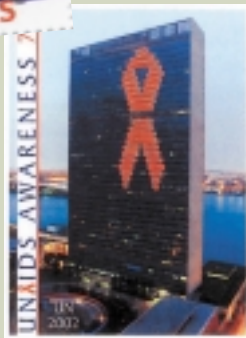
今回設置されるUNメール・ボックスは、小さなお子さんやお体の不自由な方、ご高齢の方にも安心してお使いいただけるというユニークなもので、“ユニバーサルデザイン”を手がけるトライポッド・デザイン（株）がデザインを、また（株）エイムが製作を担当したものです。光と音により投函を確認することができますので、ぜひ実際に体験してみてください。

### おすすめ国連切手&クリスマス・カード

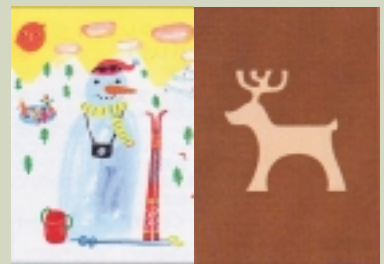


【上】スイスの国連加盟  
記念切手

【右】AIDS Awareness  
切手



←2002年10月24日に「AIDS Awareness」と「スイスの国連加盟記念」の国連切手が発行され、UNギャラリーでも世界同時に発売しています（収益の一部は国連事務総長のエイズ研究基金に寄付されます）。



↑UNメール用にユニセフのクリスマス絵ハガキもご利用いただけます。同ハガキはUNギャラリー1階で販売中です（国連切手70セントを貼付したものの）。



## 発行：国際連合広報センター

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-53-70 UNハウス8階

TEL: 03-5467-4451

FAX: 03-5467-4455

URL: <http://www.unic.or.jp> / E-mail: [unic@untokyo.jp](mailto:unic@untokyo.jp)